

## DEM-WX の手続き

1. cd **P1/keV \_PbW**
  2. **DEM-WX.ijm** を Fiji のマクロとして install.
  3. マクロ Make stack for keV により 60-80keV.txt のスタック **Stack60-80kev.tif** を作成.
  4. マクロ Make diff for keV により差分ファイル群 **ikeV \_d.tif, ikeV \_d.txt** を作成
  5. マクロ Make stack of diff により差分ファイルのスタック **Stack61-79keV-d.tif** を作成.
  6. **spot1.f90** を起動して, 各 keV 像の斑点の抽出をする. [61, 79] (keV) を入力
  7. マクロ Make sImg-stack で結果を確認し, Stack-sImg.tif にて保存する.
  8. **maxima.f90** を起動して最大輝度斑点を探す. [61,79,3] 61, 79 (keV), 3 (pixel) を入力
  9. **P1\_spot.f90** を起動して, 最大輝度斑点のデータベースを作成する. この結果をマクロ Make Ib-stack で確認し, Stack-Ib.tif にて保存する.
- 
10. cd **P2/keV \_PbW**
  11. マクロ Make stack for keV により 60-80keV.txt のスタック **Stack60-80kev.tif** を作成.
  12. マクロ Make diff for keV により差分ファイル群 **i keV \_d.tif, i keV \_d.txt** を作成
  13. マクロ Make stack of diff により差分ファイルのスタック **Stack61-79keV-d.tif** を作成.
  14. **spot2.f90** を起動して, 各 keV 像の斑点の抽出をする. [61, 79] (keV) を入力
  15. マクロ Make sImg-stack で結果を確認し, **Stack-sImg.tif** で保存.
  16. **P2\_spot.f90** を起動して, 各 keV 像の斑点リストを作成する. ファイル群 **spotP2\_i keV.dat** が作成される.
  17. その結果をマクロ Make Ib\_trace-stack で確認し, **Stack-Ib-trace.tif** で保存.
- 
18. ディレクトリー DEM-WX を作成.
  19. DEM-WX ディレクトリーにファイル群 **spotP2\_i keV.dat** および **P1\_spot.dat** をコピーする.
  20. **P1\_P2a.f90** を起動して, DEM の解析データ **dem.a.txt** を作成する<sup>1</sup>.

---

<sup>1</sup>P1\_P2a.f90 は, P1 から P2 の写像を利用しないで, P1\_spot.dat の各斑点に対して P2 のすべての斑点を利用して DEM を計算する. そして, 回折位置  $P_C$  の  $(x_C, y_C)$  がビームセンターに近いランクで 20 点をリストするようにしている. P1 から P2 の写像を利用を利用して近い点を利用するのは, X線波長と回折格子面が限定されている場合にしか利用できない.